



## 評判は最大の推薦状

～第8代伊藤良彦校長の言葉～

第21代校長 塩原 正美

初夏の季節を迎えました。6月の梅雨前までは、晴れた日（五月晴れ）が多くなります。家の中や建物の中に閉じこもらずに、太陽に下で元気よく体を動かしてみましょう。

第8代伊藤良彦校長は本校の卒業生でもあり、昭和49年（1974年）から昭和56年（1981年）まで校長として在職されました。私の商工での高校3年間は昭和51年から昭和53年でしたので、伊藤校長が在職された期間と重なります。

伊藤校長先生とは、高校3年生の4月にインターハイ県予選出場の公印をいただきに校長室にお邪魔した時に、「たしか君は柔道部の塩原君だったよね。部活は頑張っているかい。」と、突然校長室に伺った無礼にもかかわらず、このような温かい言葉を一在校生かけていただいたことが今でも記憶に残っています。

また、学期ごとの始業式・終業式では、必ず「評判は最大の推薦状である。」とお話ししていました。就職や進学をするとき、校長が発行するどのような推薦状よりも、地域や企業、上級学校の本校に対する評判が進路決定の重要な要素になるということです。

地域での迷惑行為や公共交通機関での迷惑行為は、自ら進路の選択肢を狭める行為となるにとどまらず、迷惑行為に關係のない他の生徒の進路選択の邪魔をしていることにつながります。

本校の生徒が地域や公共交通機関で迷惑行為を行えば、迷惑行為を行った生徒個人を特定して批判されるのではなく、商工生全員が批判され学校全体の評判が下がります。商工生として、このことをしっかりと自覚して本校での高校生活を送ってほしいと切に願っています。